

国語

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

令和4年度大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）は、平成25年度入学生から実施された高等学校学習指導要領（以下「指導要領」という。）を踏まえた試験であった。指導要領では、総合的な言語能力を育成する「国語総合」を共通必修科目とし、高等学校「国語」において指導する内容の共通性を重視している。

共通テストでは、指導要領において育成を目指す資質・能力を踏まえ、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視して出題することとなっており、言語を手掛かりとしながら、文章から得られた情報を多面的・多角的な視点から解釈したり、目的や場面等に応じて文章を書いたりする力などを求めることとなっている。

高等学校「国語」教科担当としての立場から、本年度の試験問題を検討した。

「内容・範囲」「分量・程度」「表現・形式」の面から、第1問～第4問それぞれに検討を加えて、評価し意見を述べる。

なお、評価に当たっては、報告書（本試験）14ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内容・範囲

第1問 「声」と「身体」との間に時間的・空間的な隔たりが存在することについて論じた文章である。具体例を用いながら、声を身体から遠く引き離すという抽象的な概念について順序立てて説明しており、論理的な文章の内容を的確に読み取る力や思考力を確認する上で適切な素材文であった。

問1 漢字・熟語についての基本的な知識・技能を問うている。

問2 一見「内的」なものに思える「声」もまた、「文字」と同じような隔たりをもっているということについて、傍線部直前の段落の内容を的確に読み取る力を問うている。

問3 声が含まもつ「内部（内面）」が、主体としての「私」のものとは限らないということについて、傍線部直前の段落の内容を的確に読み取る力を問うている。

問4 電氣的なメディアの中で「作品」となった声をもたらす経験について、傍線部直前の段落に書かれている具体的な内容を的確に読み取る力を問うている。

問5 本文全体の構成や展開の仕方について、的確に捉える力を問うている。

問6 (i) 本文の内容を読み取ったNさんの【文章】を読み直して、問題提起の部分を読み手により伝わるように具体的な内容に修正し、自分の考えを効果的に表現する力を問うている。

(ii) 語句の意味や用法を的確に理解し、読み手によく分かるように適切に表現する力を問うている。

(iii) 文章の構成や展開を工夫して、【文章】中の具体例や論拠が有機的に結びつくような結論を示し、自分の考えを効果的に表現する力を問うている。

第2問 骨董品に対して一定の審美眼をもつ「彼」の心情を描いた文章である。文体は少々古い

ものであるが、「青年」とのやり取りの中で「彼」の内面について丁寧に描写されており、心情の変化の把握を中心とした文学的な文章を的確に読み取る力を確認する上で適切な素材文であった。

問1 7行目までの文脈を正しく捉え、「彼」が田舎の町で感じているさびしさについての的確に読み取る力を問うている。

問2 28行目、29行目に書かれている「恐ろしい」「寒気」という表現を根拠とした雲鶴青磁を見た時の「彼」の様子を踏まえて、表現の特色や効果を的確に理解する力を問うている。

問3 (i) 「彼」が「青年」の言動を「からかい」として受け取った根拠について、直前の文脈を的確に読み取る力を問うている。

(ii) 傍線部前後の文脈を正しく捉え、邪推をする「彼」の心情を的確に読み取る力を問うている。

問4 32行目から44行目までの内容を根拠とし、「彼」が感じた真率さがどのようなものかについて、的確に読み取る力を問うている。

問5 「青年」に誠実に対応はしたものの、破格の値段で梅瓶を手に入れる絶好の機会を逃したことに後悔をする自身を賤しく思う「彼」の心情を的確に読み取る力を問うている。

問6 (i) 「もの」ではなく「こと」に重きを置く「蒐集」の姿勢を批判している【資料】の内容を的確に読み取る力を問うている。

(ii) 梅瓶を入手する機会を手放した「彼」の骨董品との向き合い方について、他の【資料】と関連付けて整理をし、的確に読み取る力を問うている。

第3問 平安時代の日記文学『蜻蛉日記』からの出題。母を亡くしたばかりの作者が、悲しみに暮れている場面を取り上げている。古文特有の語句が多く用いられており、古文を的確に読み取る力を確認する上で適切な素材文であった。

問1 本文の読解に必要な基本的な単語・文法の知識を問うている。

問2 2段落、3段落に書かれている内容を的確に読み取る力を問うている。

問3 4段落において作者が感じている「悲し」さの内容について、「来し時」と「此度」の対比的な描写からの的確に読み取る力を問うている。

問4 (i) 単語や文法に注意して【資料】の内容を的確に読み取る力を問うている。

(ii) 本文と【資料】を比較して、家主がいなくなった庭の様子の違いを的確に読み取る力を問うている。

問5 単語や文法に注意して6段落に書かれている内容を的確に読み取る力を問うている。

第4問 宋代の詩人・政治家である蘇軾の文集『重編東坡先生外集』からの出題。王宮の中に雉が集まってくる事件についての捉え方の違いから、忠臣としての在り方について書かれた文章である。基本的な知識や句法をもとにして漢文を的確に読み取る力を確認する上で適切な素材文であった。

問1 漢文特有の語についての基本的な知識を問うている。

問2 本文の読解に必要な基本的な句法についての知識を活用して、文脈を的確に読み取る力を問うている。

問3 本文を的確に理解するために必要な基本的な句法の知識を問うている。

問4 本文を的確に理解するために必要な訓読のきまりや書き下し文についての基本的な知識・技能を問うとともに、前後の文脈から内容を的確に読み取る力を問うている。

問5 (i) 前後の文脈から「得失」が何を表しているのかを的確に読み取る力を問うている。

(ii) 本文と【資料】とを関連付けて魏徴の人となりを整りし、本文において作者が魏徴

を例に挙げた意図を的確に理解する力を問うている。

問6 緒遂良が忠臣ではないと言える理由について、本文全体の内容を踏まえて的確に読み取る力を問うている。

3 分量・程度

(1) 設問数について

制限時間80分に対して大問は4問で、大問ごとの設問数は第1問と第2問と第4問で各6問ずつ、第3問で5問であった。全体の解答数は36で、本試験より1問少ないが適切であった。

(2) 難易度について

第1問は、本文及び設問中の【文章】とも文章量は適切であったが、リード文中の「言葉のエコノミー」に関する記述と、本文の中心的な話題である「声」とを関連付けて読み取ることは受験者にとって多少困難であったと思われる。また、問6のように、生徒自身が書いた文章を適切な表現に修正したり、まとめの文章を末尾に示したりするという学習場面を設定した設問は工夫されているが、受験者にとって選択肢の絞り込みが難しかったと思われる。

第2問は、本文及び設問中の【資料】、【話し合いの様子】とも、題材、文章量は適切であった。問6のように、本文中の一文について、教師と生徒たちが資料を用いて話し合う場面を設定し、複数の異なる資料や他者の考えを踏まえて考える力を見る設問もあり、難易度として適切であった。

第3問は、本文の『蜻蛉日記』や【資料】とも、題材、文章量は適切であった。文法や基本的な単語の知識を活用して解答する設問のほか、本文中の和歌に関する【資料】を読み解き、本文と比べ読みを行う設問が出題され、難易度としては適切であった。

第4問は、本文と【資料】とも、題材、文章量は適切であった。基本的な漢文の知識を用いて解く設問や、資料を踏まえて本文の背景を読み解く設問など、難易度がバランスよく出題され、適切であった。

全体的には、指導要領や生徒の学習の過程を意識した場面設定を踏まえており、難易度は妥当であった。

4 表現・形式

第1問

〔問6〕本文を読んだ生徒が、本文の『『電氣的なメディア』によって、声とそれを発する人間の身体とが切り離されるということ〕について考察したことを文章にまとめるという学習場面が設定されており、問題作成方針に合致している。

(i)(ii)(iii)いずれも、目的や場面に応じて文章を書いたり、書いた文章を推敲したりすることを意識した問い方となっており、受験者の日頃の学習活動を踏まえたものである。また、配点については設問の内容に見合った配点がなされていた。

(ii)について、【文章】の内容を踏まえて適切な表現に修正するために、接続語を検討する出題であったが、正答としての蓋然性がやや低いと思われるものがある。誤答も含めた選択肢の妥当性について今後検討していただきたい。

第2問

〔問6〕目の前にないものが見える、という趣旨の本文の表現に注目し、「もの」の収集と「こと」の収集について話題にした説明的な文章を【資料】としながら、本文の理解を深める学習場面が設定されており、問題作成方針に合致している。

教師の支援のもと、二人の生徒が対話を通じて【資料】の内容を理解していく過程を問いとした(i)、その理解を踏まえて【本文】の理解を深めていく過程を問いとした(ii)ともに、高等学校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のメッセージ性が感じられる。

第3問

〔問4〕本文中の登場人物が発した和歌の一節に関連する和歌とその詞書を【資料】として提示し、本文の内容と【資料】の内容とを読み比べて、両者の共通点や相違点を的確に読み取る力を問う出題であり、問題作成方針に合致している。

表現や用語も受験者の混乱を招くものではなく、適正であった。また、配点についても設問の内容に見合った配点がなされていた。

第4問

〔問5〕本文は、王宮内の異変を案じる皇帝の「太宗」とそれに応じる臣下の「褚遂良」の対応について論じた文章である。この問いでは本文の筆者が話題に出した「魏徴」という人物に関連する文章を【資料】として提示し、この資料をもとに「魏徴」の人物像や本文の「褚遂良」との違いを考察した上で、本文を的確に読み取る力を問うており、問題作成方針に合致している。

表現や用語も受験者の混乱を招くものではなく、適正であった。また、配点についても設問の内容に見合った配点がなされていた。

5 ま と め

知識の理解の質を問う問題や、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視する共通テスト問題作成方針に則した良問が出題されたことを評価する。今後、高等学校での学習を通して受験者が身に付けた力を評価するのに適切な問題として作成され、また、生徒の言語能力を育成する高等学校国語科の授業づくりに資することを期待して、意見・要望を以下に示す。

- (1) 「国語総合」の枠の中で指導要領に沿った作問がなされていた。第2問における本文の内容理解を目的に【資料】を用いて教師と生徒が話し合う場面が設定された設問、第4問の筆者の叙述の背景を【資料】を踏まえて考察する設問など、学習者による「主体的・対話的で深い学び」を踏まえ、工夫された形式で出題されており評価される。
- (2) 論理的な文章を題材とした第1問は、本文全体及び選択肢中の語句とも抽象度がやや高く、得点が出にくいという状況が見られた。他の大問はいずれも、本文が比較的平易で適量であり、時間内でテキストの細部を検討したり全体の要旨を把握したりして読み、設問の意図を捉えて選択肢を吟味することが可能であったと思われる。設問の作成に際しては、問題そのものの難易度はもちろん設問及び選択肢に使用する語句、表現について吟味し、受験者が国語科の授業において習得した基本的な語彙や表現を活用して解答することができるよう一層の工夫が求められる。
- (3) 共通テストにおいては、生徒が「どのように学ぶか」を重視していることが感じられるものであった。本文の主題に迫る学習課題、その解決を図る目的で設定された「対話的な学び」、古文に引用された和歌や漢文で記された人物に関する【資料】の提示にみられる設問の工夫など、授業改善の視点において大いに示唆に富むものであった。今後も題材として実用的な文章を含めた多様な文章を活用した出題を期待したい。そのような出題が国語科における授業改善を促し、生徒の言語能力の育成に資するものとなることを期待する。